昭和49年10月1日発行（毎月1回1日発行）第23巻・第10号　昭和29年6月23日　日本国有鉄道特別扱承認雑誌第2636号　昭和30年3月24日第三種郵便物認可

航空ファン

THE KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR

中島
一式戦集



☆特集☆
実戦任務についた英仏空軍のジャガー
バークスディル空軍基地のB-52ルポ
ドイツ空軍のドルニエDo217爆撃機

'74 OCTOBER 10

$3.30

第一線配備についたジャガー

SEPECAT Jaguar now in service with RAF & French Air Force



[illegible]

[illegible] 10 of OCU, RAF



SEPECAT Jaguars on the flight line at RAF Lossiemouth, with RAF GR1 in the full production standard configuration.

ロッシーマス空軍基地に勢ぞろいしたRAF（英空軍）のジャガー。手前から4機目は[illegible]、ほかはGR.1である。手前のXX[illegible]号機は垂直安定板先端にECMセンサー・ポッド、機首にはレーザー測距儀を装備した完全な生産仕様となっている。また、この機体はRAFでジャガーを装備する2番目の[illegible]スコードロンの所属である。
(Inter-Air Press)



タッチダウン直前のジャガーGR.1（XX722/13）。主翼下面のパイロンに装着しているのは28ポンドの訓練用爆弾を収容するストア・キャリア（No.100CBLS）。機体の塗装は全面マット仕上げで，主翼下面のラウンデルもタイプBに近いものにするなど，最新のものになっている。（Hoz-an Press）



SPA 77 "Jerusalem Cross" on the fin of Esc I/7

フランス空軍のジャガー部隊は，セント・デジェ基地で第７連隊（7emc）の第１飛行隊（Esc I/7）と第３飛行隊（Esc III/7）がすでに編成を終えており，ただいま第２飛行隊（Esc II/7）の編成途中である。

〔上〕Esc I/7所属のジャガーA。吸気口カバーに書かれた7-11のコード・レターはEsc I/7を示す。普常このあとにアルファベット１文字を加えて機体識別記号としている。

〔右〕Esc I/7所属機の垂直尾翼右側面に画かれた同飛行隊のエンブレム。1917年に編成された前身の飛行隊SPA77の"エルサレム・クロス"である。

〔下〕Esc III/7所属の複座のジャガーE。垂直尾翼に見るのは，第１次大戦中に編成された同飛行隊の前身SPA38以来のマーキングである。 (Photos by AAPP)

French AF two-seat J aguar E of Esc III/7





初飛行したYF-17



去る6月9日に初飛行したノースロップYF-17の1号機。先月号につづいてカラーで見る第2弾。エドワーズ基地周辺上空でのシーンである。


01569
YF-17



前ページと同じく飛行中のYF-17 1号機。初飛行後たてつづけに飛行テストを行ない、すでに超音速でも飛んでいる。2号機もまもなく飛行テストに参加するが、ジェネラル・ダイナミックスYF-16との性能くらべもいよいよ佳境に入ったというところ。





バークスデイル空軍基地のB-52

バークスデイル空軍基地に駐留している戦略空軍第2航空軍のB-52G，両翼下に空対地のAGM-28Bハウンドドッグ・ミサイルを1基ずつ装備している.(グラビアおよび本文記事参照)

Koku Fan camera visits U.S. Air Force bases #2. B-52 stationed at Barksdale AFB



垂直尾翼の高いB-52D-55-BO（シリアル55-0077）



垂直尾翼を幅の広い低いものに改造したB-52G-15-BW（シリアル57-6473）



B-52G-95-BW(シリアル58-0176)

B-52G-105-BW(シリアル58-0231)



B-52G-100-BW（シリアル58-0191）



B-52G-90-BW（シリアル57-6503）





ダグラスA-1H スカイレイダー
このスカイレイダーは、あなたの腕に挑戦します。飛ぶことは不可能でも、それ以上のメカニックで可動部のアイデアが生かされ、すばらしく楽しい内容で構成されているのです。
さあ、挑戦を受けてみましょう。
●1/40スケール 全長30cm 全幅37.5cm ●H-260
●レベル傑作機シリーズ●
じまんの腕に挑戦する
傑作モデル
新製品近日発売
●すでに発売中の海軍塗装の"スカイレイダー"もぜひどうぞ。
TT
AF
314
●フラップ――可動
●テイルギア――可動
●超難度連動可動部
●超難度連動可動部
Revell
プラスチックモデルは
レベル
レベルカラー
グンゼ産業(株)レベル部



フィンランド空軍のMiG-21

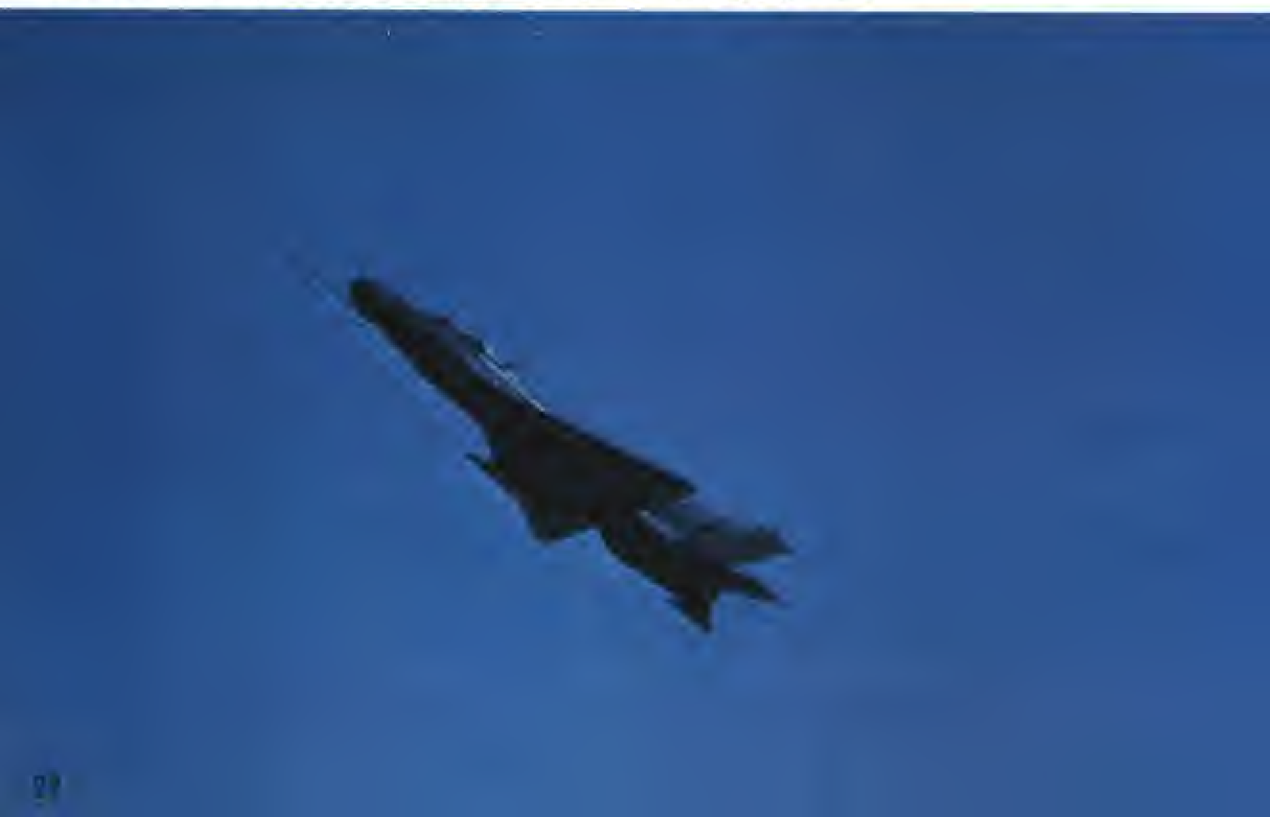
MiG-21F, main force of No.31 Sqdn of Finland AF

フィンランド空軍第31飛行隊のMiG-21F（フィッシュベッドC)。写真上は滑走路に向うところ。バックの木立ちがいかにも北欧らしい。機首に書いている「MG-49」は、フィンランド空軍機のシリアル。写真下は着陸したところで、胴体下面2ヵ所のスピード・ブレーキが下げられているのに注意。





このページも飛行中のフィンランド空軍のMiG-21F。同空軍ではMiG-21を約50機保有し，SAABドラケンとともに3個飛行隊を編成している。上の機体にも「MG-62」のシリアルが見えるが，アルファベット2文字と数字を組合わせたもので，主としてメーカーの頭文字を基本とし，ミグ系列にはすべて「MG-　」の記号を使っている。



コルセアIIの複座練習型

LTV two-seat A-7 prototype, YA-7H

LTV A-7コルセアの複座練習型の原型YA-7H。同機は初飛行以来ここ2年ほどの期間に360時間余のデモ飛行を行ない，LTV社ではこのほど海軍とのあいだに480万ドルで81機のA-7B，A-7C単座攻撃型を複座練習型に改造する契約を結んだ。改造型はTA-7Cと呼ばれ，艦上機乗員の転換訓練に使われる。改造は1979年中頃までに完了の予定。





オーマン空軍のストライクマスター

BAC 167 Mk.82 Strikemaster of Oman AF, Arabian Peninsula.

アラビア半島東端の小国オーマン空軍のBAC167Mk 82ストライクマスター。同国空軍の隊員はわずかに400人。装備機も輸送用のバイカウント4機，ビーバー4機，カリブー4機，スカイバン12機のほかアグスターAB 205ヘリが10機，AB 206が4機というこじんまりとした陣容。戦闘攻撃機はこのBAC167が1個飛行隊（12機）のみ。国内の共産ゲリラの暴動にそなえている。



ノースロップYF-17軽量戦闘機

Northrop YF-17 No.1 machine

6月9日に初飛行したYF-17は，すでに先月号の本欄や今月号のカラーページでも紹介しているが，これはまた変ったアングルの飛行姿．ライバルのYF-16が単発であるのに対して本機は双発，単尾翼に対して双尾翼形式ときわだった対比をみせており，今後のテストの結果が注目される。





米海軍のハリアーとオライオン

AV-8A Harriers of VMA-542 operate from USS GUAM, U.S. East Coast

〔上〕ヘリ空母グァムに積まれて演習中の第542海兵攻撃飛行隊（VMA-542）のAV-8Aハリアー。このほどアメリカ東海岸沖で15日間にわたって行なわれた演習のときのシーンで，VMA-542のハリアー6機が参加して，上陸部隊の空中援護，地上攻撃，空母護衛などの訓練を行なった。

〔下〕これは日本海における米海軍のP-3Cオライオンと潜水艦。最近行なわれた対潜哨戒訓練でのシーンである。

Lockheed P-3C Orion during anti-submarine exercise, Japan Sea





A-7のLVRJ発射テスト

Low Volume Ramjet complets initial drop test.

「上」A-7から発射されるLVRJ（ロー・ボリューム・ラムジェット）の実物大テスト機。LVRJは長射程戦術ミサイル用にLTVが開発しているロケット・ラムジェット複合の推進装置で、今回第1回の発射テストに成功したもの。

「下」編隊で飛ぶアルファジェットの原型3機。アルファジェットはこの5月に3号機が初飛行して、原型3機が出そろった。最後尾が3号機である。

Three first prototypes of ALPHA JET in flight

アルファジェットの編隊飛行





M53エンジン装備ミラージュF.1

Mirage F.1/M53 No.1 machine in assembly

ダッソー・ブレゲー工場で生産中のスネクマM.53エンジン装備のミラージュF.1 M53第1号機。同機は今秋初飛行の予定。なお，左端はアルファジェットの原型4号機で，これも10月に初飛行の予定である。

ハットフィールドのホーカー・シドレー工場で完成したHS146のモックアップ。HS146は70～100人乗りの新型旅客機で，開発は1973年夏にスタート，1975年末に1号機が初飛行し，77年から路線に就航する。

Hawker Siddely HS 146 mock-up

HS146のモックアップ





'74中欧連合軍 ウェポンミート (続)

F-104G of 10 Wg, Belgium AF

(上) 2ATAFチームに参加したベルギー空軍第10連隊のF-104G。ベルギーのクロイネ・フローゲル空軍基地をホーム・ベースとしている部隊である

(下) 大会が開かれたバーデン・ゾーリンゲン空軍基地に駐留しているカナダ国防軍第1航空大隊第421飛行隊のCF-104。今回の大会はこの部隊がホスト役をつとめた。ここに紹介した各機のほか、今大会の参加機は西ドイツ第31戦術戦闘連隊と34戦闘連隊のF-104G、米軍36戦術戦闘連隊第10飛行隊のF-4Dである。各部隊の参加クルーは，大会の2ヵ月前に無差別に選ばれるので，大会で好成績をおさめるにはふだんの訓練と練度の保持が第一である

CF-104 of 1 CAG, 421 Sqdn, Canadian AF





来日した“さめ口”のファントム

Shark-toothed Phantom II appears in Japan.

ここの2枚はこのほど横田基地に飛来した“さめ口のファントムII”。韓国に駐留する第3戦術戦闘連隊（3TFW）所属のF-4Eで，同連隊では，以前はF-4Dを装備していたが，いまでは写真の主翼前縁スラット付きのF-4Eに機種改変している。“さめ口”はタイ国駐留当時に画かれていたのが，そのまま残されているもの。この“シャーク・ティース”付きのファントムが日本に飛来したのは初めてである。（Photo: K. Tokunaga）



アメリカの海空軍基地――②

バークスデイル空軍基地



基地のエプロンで翼を休める第2爆撃連隊所属のB-52G。





左ページとこのページは，機首や水平尾翼などに改造してふくらみをつけてテスト飛行中のB-52G。G型はF型を基礎にして細部まで再設計して構造変更され，軽量化され航続力が長くなった。外観としてはF型にくらべ垂直尾翼の幅が広くなって，機首レドームも大型になった。主翼下面にAGM-28ハウンドドッグを2発装備。







B-52Gの武装は、爆弾
ほかにAGM-28Bハウ
ドドッグが2発、尾部砲
に12.7㎜機関砲が4挺そ
に核ミサイルのAGM-6
SRAMを20発装備でき
ことになっている。
写真左は主翼下のポッ
に吊されたAGM-28B
ウンドドッグ。このミサ
ルはB-52GとH型用に
発された長射程のASM
推進装置のJ52P-3ター
ジェット・エンジンは母
から給油を受け、離陸時
飛行中の加速時には、始
して母機の推力を助ける
いう面白いアイデアのミ
イルである。写真下は尾
砲塔の12.7㎜機関砲。







［上］翼下面にＡＧＭ-28Ｂハウンドドッグミサイルを装備した第２爆撃連隊のＢ-52Ｇ。ハウンドドッグを装備した場合、Ｂ-52は離陸時に機体重量が重くなるため、ミサイル推進用のエンジンも同時に使用する。





〔上〕エプロンに並ぶB-52G爆撃機。〔下〕予備航空隊第917戦術戦闘飛行隊に所属するA-37B攻撃機。



ブラジル空軍新鋭機



現在ブラジル空軍の使用している主力戦闘機ミラージュIII E B R．同空軍では本機を16機装備して1個迎撃戦闘飛行隊を編成している．写真は編隊飛行訓練中のミラージュIII．



装備されたばかりのブラジル空軍の新鋭コイン機AT-26と後方はC-95(EMB-110)輸送機。C-95はC-45、C-47に代えて同空軍が装備中の新鋭輸送機で、80機を受領することになっている。



〔上〕ブラジル空軍コイン・スコードロンのＡＴ-26。本機はアエルマッキＭＢ326ＧＣをブラジルで国産したもので、空軍は112機発注しており、すでに数機が納入されている。なおコイン・スコードロンは対ゲリラ作戦にそなえる攻撃部隊で、ＡＴ-26のほかＡＴ-6Ｇ約90機、ＡＴ-37Ｃ約40機装備しており、現在のところ36個飛行隊を編成している。〔下〕ブラジル空軍の戦闘攻撃機部隊はＢ-26ＫとミラージュⅢＥＢＲが各１個飛行隊のほかは、小型のコイン機部隊である。



ウェストランド・ウェセックス



最近行なわれたＮＡＴＯの夏期演習「ベック・アウト作戦」で、イギリス空軍のウェストランド・ウェセックス・ヘリコプターの活躍が目立っていた。この作戦は、西ドイツのモーゼル河の西をベルギーの国境を越えて、コブレンツ方面に侵入する敵の部隊を、イギリス空軍と西ドイツ歩兵部隊が協同して阻止するという想定であった。イギリス第18スコードロンのウェセックスが、西独歩兵部隊を侵入地附近に空輸したのが、この作戦中のヤマ場であった。仮想敵のハリアーからのがれるため森の中に「カイレガ」を用意し、ミッションの終るたびにブレイドと尾翼をたたんでネットでカムフラージュした。こうしたはげしい使用にもかかわらず、ウェセックスはエンジン、機体共何一つトラブルがなかったという。メイトランド隊長は演習のあとで「ウェセックスは古い型だが、兵員輸送に理想的な飛行機である」と評している。





［左上］イギリス第18スコードロンのウェストランド・ウェセックス。「隠れ家」に着陸するところ。［左下］第21空輸大隊の移動給油車から地上給油をうけるウェセックス。給油は仮想敵の目をのがれ、時には自動車の駐車場も使用された。［上］仮想敵のハリアーからのがれるために、ウェセックスは演習中終始低空飛行した。［下］任務が終るたびにブレードや尾翼をたたんでネットでカムフラージュされ森の中にかくされた。



フォート ニュース



〔上〕モロッコのカサブランカをデモ飛行で訪問したメルキュールの原型2号機。同機はパリからカサブランカまで無着陸で飛行した。なおエアインターが同機を10機発注しており1975年までに引渡されるという。

〔下〕今年5月にA300Bエアバスの極東訪問のデモ飛行が行なわれたが、同機はオーストラリアに立ち寄った際ニュージーランドも訪れた。写真はニュージーランドのウェリントンでデモ飛行中のA300Bエアバス。







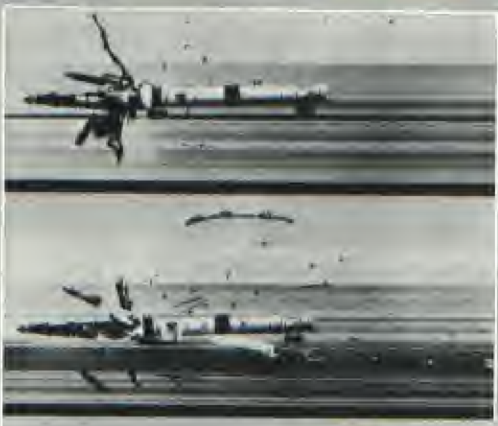
［上］コンコルドは、エアライン就航時の状況をデモするために、5月27日から6月5日まで5往復の大西洋横断飛行を行ない、6月13、17、19日にはパリ－ボストン間のデモ飛行も行なった。写真はボストンからの飛行を終えて、パリ・ドゴール空港に着いたコンコルド2号機。

［右］ドイツにある世界的に有名な高速自動車道路アウトバーンで、高速道の交通整理に活躍中のドイツ警察のアエロスパシアル・ガゼル・ヘリコプター。我が国の道路とちがい200 km近い速度で走る自動車を監視するにはヘリコプターが一番便利だということである。

［下］流麗なアエロスパシアルのビジネス・ジェットSN601コルベット。原型1号機は1972年末に初飛行。すでに耐空証明も取得しており航空会社への引渡しはまもなく開始される。











（上）現在カリフォルニアのロッキード・バーバンク工場では、パシフィック・サウスウエスト航空（ＰＳＡ）向けＬ-1011 ２機の最終仕上げが急ピッチで進んでいる。同社はすでに５機のＬ-1011を発注ずみで、今年夏に写真の２機の引渡しをうける。残りの３機の受領は来年の６月、８月、11月の予定。乗客数は297人。

〔中〕ＬＴＶミシガン工場で開発中の対戦車ミサイル、ＴＧＳＭ。直径６インチ、長さ30インチ、重量30ポンドで、大きいミサイルに収められ何発も同時に発射されるようになっている。

〔左〕ＴＧＳＭの発射テスト。親ミサイルの弾頭から、中のＴＧＳＭが飛び出す様子がよくわかる。このミサイルは米陸軍ミサイルコマンドとＬＴＶの協同開発によるもの。





（左上）ボーイング747は就航以来４年半以上経過しているが、これまで死亡事故は一件もない。写真はワシントン州エバレットの747製造工場の内部風景。営業運航回数が50万回を突破した747は同工場で続々と生産が続けられている。〔右上〕英空軍の"ピューマ"ヘリコプターが、ロンドン近郊の腎疾患患者の家の庭に人工腎臓機械を降ろしているところ。この日のロンドン近郊の交通混雑はとくにひどく、病院からの車が患者の家から約 549mの所で立往生してしまったため、ハンプシャーのオーディアムから救援にかけつけたもの。〔下〕オーストラリアのジョン・コリンズさんは飛行機を使ってセールスをしている。今年51才。年平均飛行距離は73,000kmで御要望に応じて何でも揃えます。日本でいうなら「便利屋さん」というところ。写真で日本製の電気製品が見えている。パース空港で給油と荷物のつみこみ中。



スナップ だより



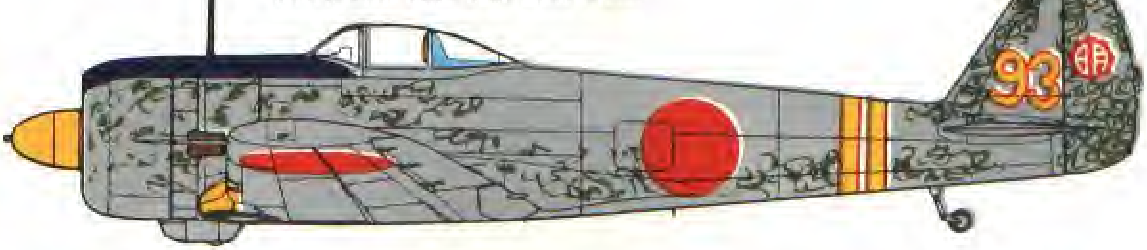


〔上〕横田基地に着陸するＴＩＡ（トランス・インターナショナル・エアウエイズ）のマクダネル・ダグラスＤＣ-10-30Ｆ。最近では米軍のチャーター便もエアバスを使用する会社がふえてきている（昭島市・山内裕之）。

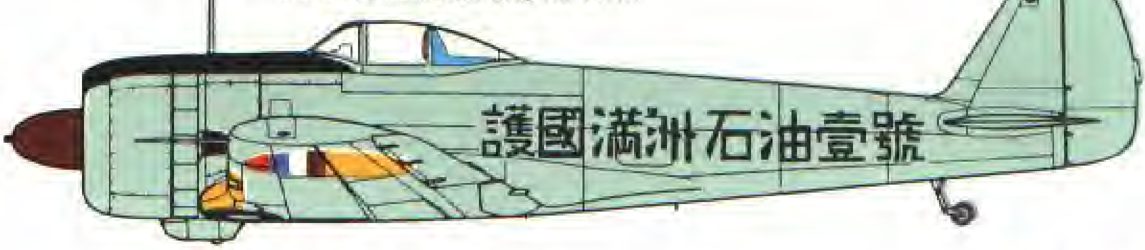
〔右〕去る７月14日に行なわれた小松基地航空祭に展示された，実験航空団のマークをつけたＣ-1の１号機。（西宮市・浜野博司）。

〔下〕厚木基地でサイドワインダーＡＡＭとスパローＡＡＭを装備して訓練中の空母ミッドウェイＶＦ-161所属のＦ-4Ｎファントム。（藤沢市・遠藤尚）。

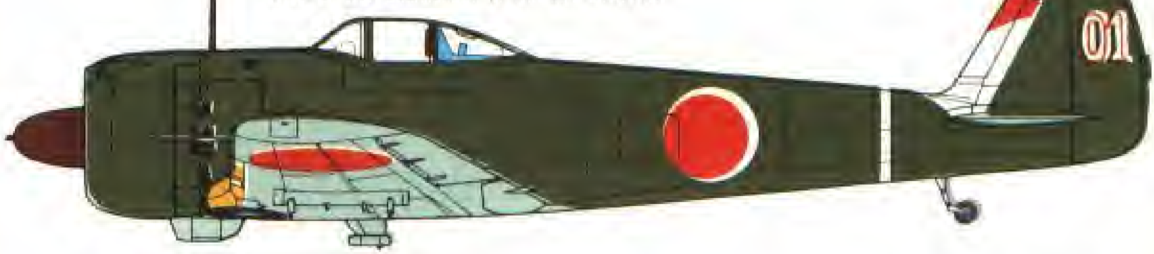




① キ43 II乙，明野飛行学校所属機。
Ki43-II Otsu, Akeno Army Flying School.



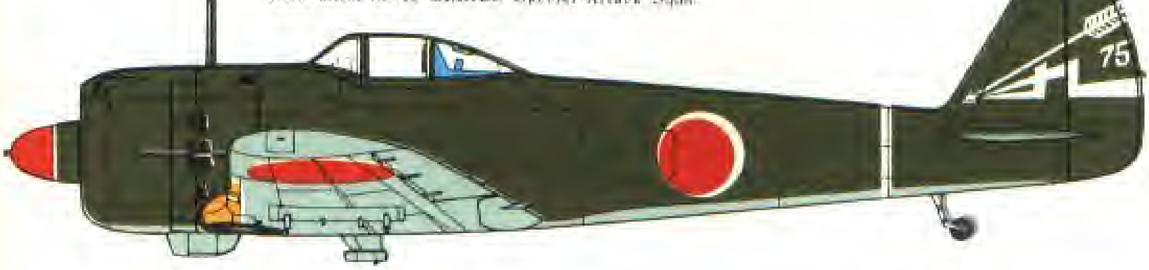
② キ43 II甲，満州国軍飛行隊所属機。
Ki43-II Ko, Manchurian Army Air Force.



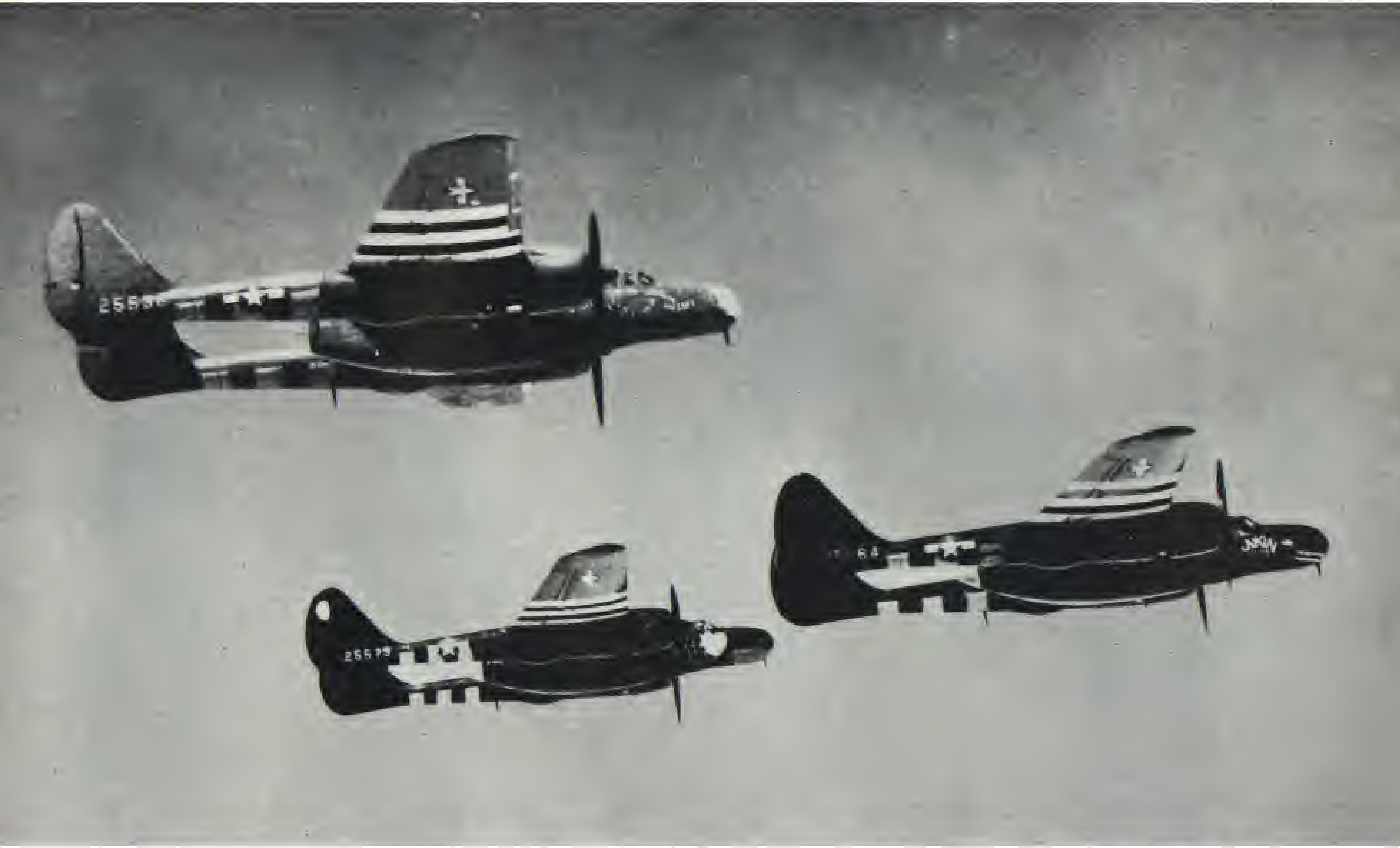
③ キ43 III甲，飛行第204戦隊戦隊長機。
Ki42-III Ko, Commander of No. 204 SENTAI.



④ キ43 III甲，第1特別攻撃隊中隊長機。
Ki43-III Ko, Company Commander of No.1 Special Attack Sqdn.



⑤キ43 III甲，第19振武特別攻撃隊
Ki43-IIIKo, No 19 SHINBU Special Attack Sqdn.



Northrop P-61 Black Widow.

〔上〕欧州の第９空軍に装備されたP-61A。同空軍でブラックウイドーを装備した夜間戦闘機中隊は，第422と第425のわずか２個中隊。写真は欧州の戦場に登場したばかりの３機で，フランス上空を飛行中のもの。同空軍のブラックウイドーは，夜戦のため全面黒塗り，垂直尾翼下方の胴体ブーム両側に赤でシリアルを書き，機体下面に24か18インチ幅のインベイジョン・ストライプス。スコードロン・コードや機体記号なんかは一切つけずに，ニックネームも通常白で書くようにしていたが，10～11カラー・ページの機体のように，カラーのマークをつけた例外もあった。



アメリカ空軍の夜間専用戦闘機の構想が生まれたのは1940年ころ，イギリスが経験したドイツ空軍の夜襲による戦訓によるものであった。陸軍空軍の要望に答えて，ノースロップが双発双尾翼の本機の設計を提出したのは1940年11月，最初の量産型P-61Aが完成したのは1943年末，南太平洋の戦場に初めて登場したのは1944年と2次大戦も末期。戦力化は遅かったが，790機余が生産されてヨーロッパ，太平洋の両戦場で使われている。

（上・下）先行量産型のYP-61。写真の機体はその2号機である。YP-61は1941年10月3日に13機が発注され，1943年9月までに全機が完成している。“ブラックウイドー”は北アメリカ原産の黒色の毒ぐもである。



ノースロップ P-61 ブラックウイドー





ヨーロッパ戦線の第9空軍に送られたP-61Aブラックウィドー。第9空軍で本機を装備した夜間戦闘機部隊は，第422と第425の両中隊。全面をグロシイ・ブラックに塗り，中隊コードと機番号はなし，シリアルは赤で書いていた。



〔上・下〕戦場のP-61A。P-61Aは200機が発注され，1944年から第一線に配備された。その初期の型は原型のXP-61，YP-61と同じプラット・アンド・ホイットニイR-2800-10ダブル・ワスプ　エンジン（2,000HP）であったが，生産46号機からはR-2800-65（2,250HP）に換装，35号機からは写真に見える背部の砲塔を尾部バフエティングの悪影響があるとして廃止している。機首にAIレーダのアンテナが見える。

写真下の機体は第12空軍の1機で，イタリア上空を飛行中のもの。双発双尾翼の大型戦闘機で，夜戦用レーダ搭載にも充分のスペースがあった。





〔上・下〕太平洋戦線に投入された第５空軍第18戦闘連隊第421夜間戦闘中隊のP-61A。1944年２月11日，フィリピンのレイテ島タクロバン飛行場におけるシーンで，下の写真は機首のA.I.レーダの整備。日本機撃墜のマークが一つ付けられている。

第５空軍の夜間戦闘機部隊は，当初第418中隊と第421中隊の２個中隊で，1944年１月と２月に太平洋戦線で編成され，最初の機体はダグラスP-70（A-20の夜戦型）であったが，同年９月と７月にそれぞれ本機ブラックウィドーに機種改変している。さらに同年10月には，新しくP-61を装備した第547夜間戦闘飛行隊が編成されて，ブラックウィドー装備部隊は３個中隊となった。







〔上〕これもタクロバン飛行場のP-61A。遠隔操作の背部砲塔には12.7mm機銃を4梃装備していた。写真ではその銃身が上方に向けられている。第5空軍所属のブラックウイドーも全面ブラックの塗装で，シリアルをブーム後方側方に赤か黄で大きく書いていたが，部隊マークは一部の例外をのぞいてつけられていなかった。1944年2月11日の撮影。

〔下〕これも第5空軍に配備されたP-61B。1945年8月，フィリピンのクラークフィールドで撮影したもの。P-61のB型は主翼下に1,600ポンド爆弾×4か300ガロンの落下増槽を懸吊装備できるようになったもので，450機が造られ，後期生産の250機は，P-61Aで一時廃止した背部の砲塔を復活している。太平洋戦線のP-61は，1944年7月1日に初戦果をあげ，終戦までに42機の日本機を撃墜している。





〔上〕これも太平洋戦線のブラックウイドー。1945年1月，サイパン島周辺上空を飛行中。本機の平面形がよくわかる写真である。

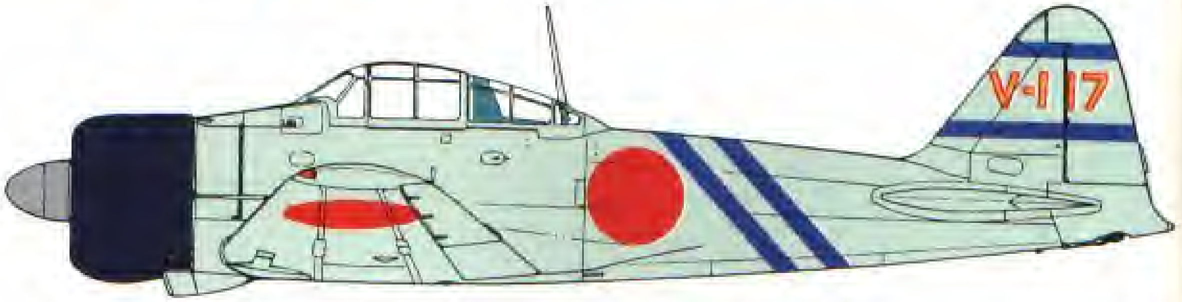
〔下〕ブラックウイドーの最終生産型P-61C。C型はターボ・スーパーチャージ付きのR-2800-73エンジン（2,800HP）を積んで性能を向上したもので，41機が生産されている。これで最大速度は430mph（691km/h）の高速となって，実用上昇限は8,000ft（2,438m）も向上して，41,000ft（12,497m）となり，30,000ft（9,144m）まで14.6分という双発機としては格段の高性能機となった。C型は41機造られたところで終戦となり，発注されていた残りの476機はキャンセルされた。戦後は偵察型のF-15も36機が造られ，1948年にRF-61Cに呼称を変更，1952年まで就役している。



Revell ハイモデリングのための
レベル資料集

JAPANESE NAVY AIRCRAFT IN WWII

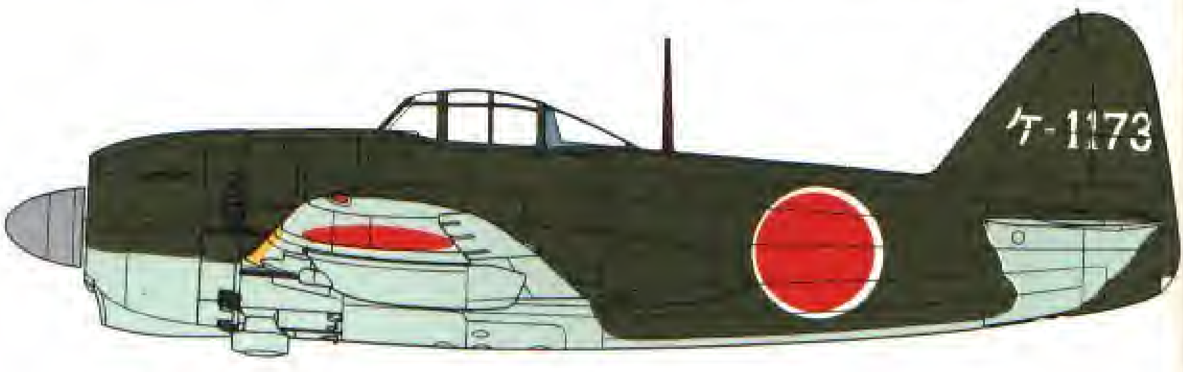
1/32・1/72・1/144 SCALE KIT



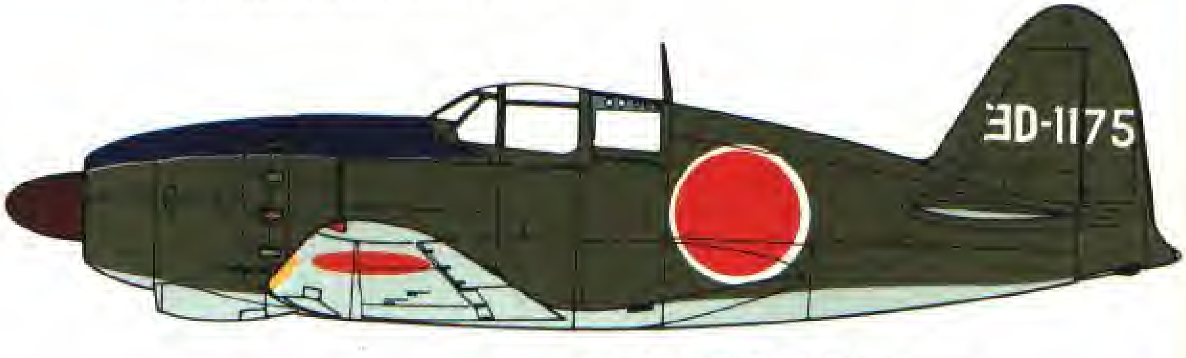
① 零戦21型，台南航空隊所属機（1/144）。
A6M2 Zero Fighter Tainan KOKUTAI.



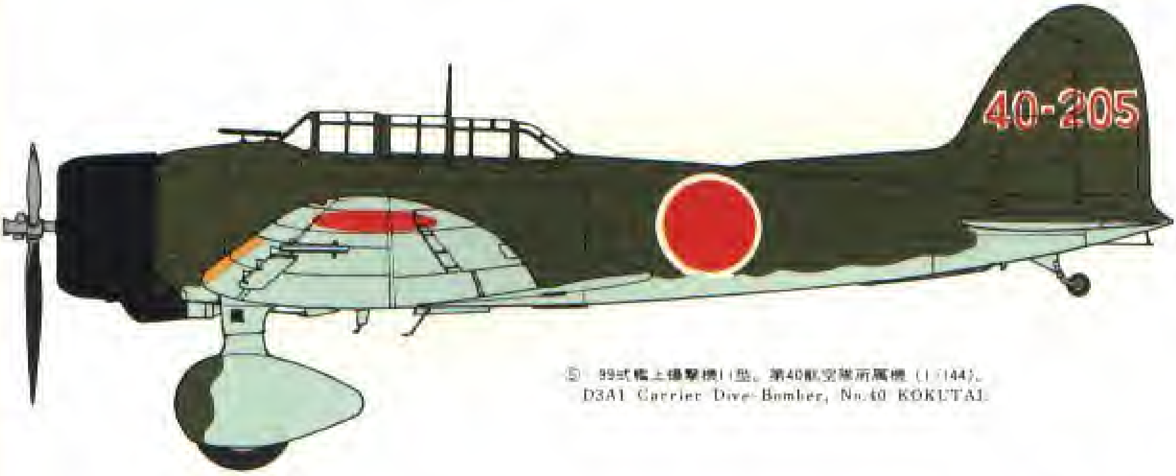
② 零戦52型，第721航空隊所属機（1/32～1/72）。
A6M5 Zero Fighter No.721 KOKUTAI.



③ 紫電11型，元山航空隊所属機（1/144）。
N1K1-J SHIDEN Fighter, Genzan KOKUTAI.

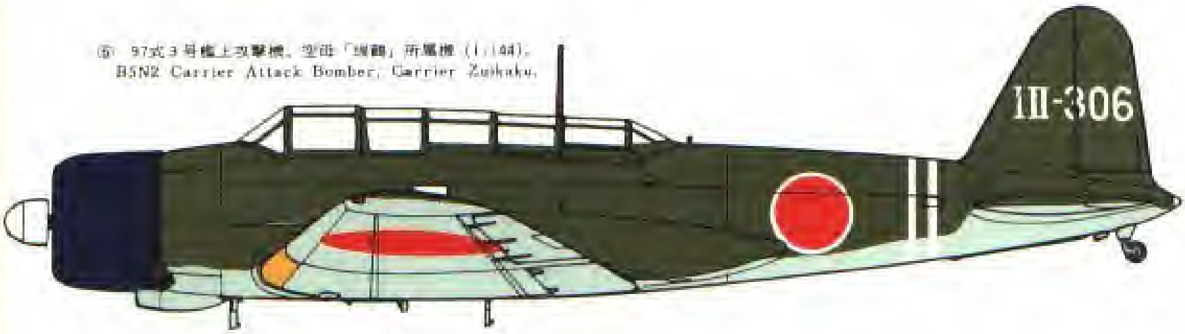


④ 雷電21型，第302航空隊所属機（1/32～1/144）。
J2M3 RAIDEN Fighter, No.302 KOKUTAI.

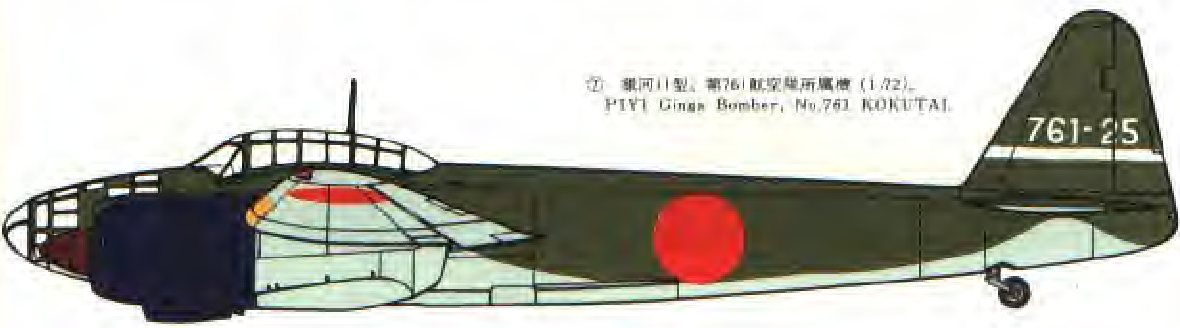


⑤ 99式艦上爆撃機11型、第40航空隊所属機（1/144）。
D3A1 Carrier Dive-Bomber, No.40 KOKUTAI.

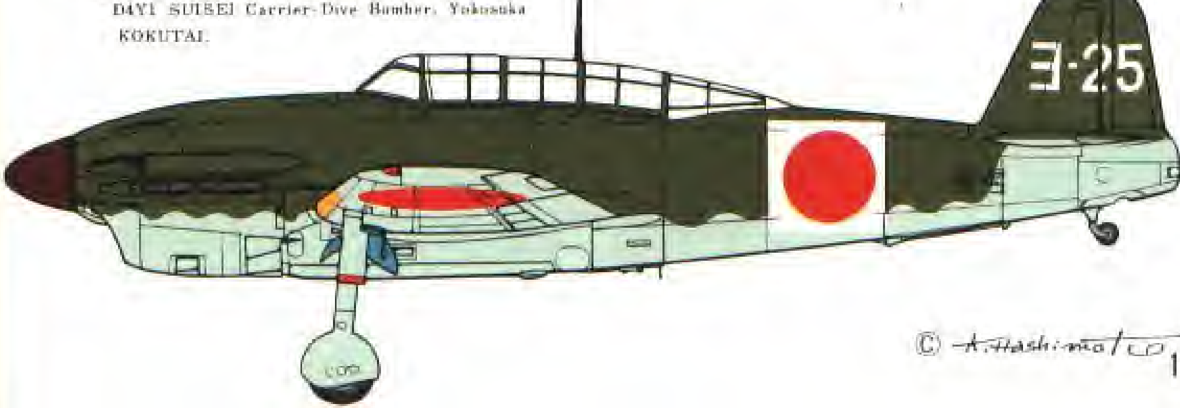
⑥ 97式3号艦上攻撃機、空母「瑞鶴」所属機（1/144）。
B5N2 Carrier Attack Bomber, Carrier Zuikaku.



⑦ 銀河11型、第761航空隊所属機（1/72）。
P1Y1 Ginga Bomber, No.761 KOKUTAI.



⑧ 彗星（2式陸偵）、横須賀航空隊所属機（1/144）。
D4Y1 SUISEI Carrier-Dive Bomber, Yokosuka KOKUTAI.



© A.Hashimoto

ハイモデリングのための
レベル資料集

日本海軍機写真集（1）

JAPANESE NAVY AIRCRAFT IN WWII



⬆ 341航空隊所属の零戦21型。
A6M2 of No.341 KOKUTAI.

⬇ 341航空隊の紫電11型。
N1K1-J of No.341 KOKUTAI.



今月はレベルから発売されている，旧日本海軍機のご紹介その1です。今月の紹介機以外に，紫電改1/144や月光1/72，彩雲1/144などもあり，旧日本海軍機集その2でごらんいただきましょう。

☆キットの紹介☆

図① レベルの1/144シリーズで発売中の，零戦21型，ミニミニ・プレーンながら精巧な仕上りのキットで図のようにストライプつきの台南航空隊所属機に仕上げると，小粒ながらピリッとした素晴しいモデルとなる。

図② 零戦52型は1/32スケールと1/72スケールがそろっており，特に1/32のモデルはデラックス版として，よいまとまりで定評のあるキットである。図は第721航空隊の所属機で神雷特攻隊の直掩に活躍した機体。

図③ 紫電11型，1/144スケールで発売中，キットは乙型となっているから図のような塗装と所属マークでOK。

図④ 雷電21型，1/32の超デラックス版であり，雷電の決定版としても定評のあるキットである。

図⑤ 99式艦上爆撃機11型，1/144シリーズで発売中で，図は第40航空隊の所属機。

図⑥ 97式3号艦上攻撃機で空母「瑞鶴」の所属機。キットは1/144スケールで発売中。

図⑦ 銀河11型，1/72シリーズで発売中のキットで，11型から16型が作れるコンバーチブル・キットであるのも特徴のひとつであり，エンジンを内蔵し内部装備も詳細に作られている。

図⑧ 2式艦偵「彗星」はやはり1/144シリーズで発売中，図のように艦偵に仕上げてみるのも楽しめる。

☆　☆　☆

以上8機の日本海軍機の塗装は上・側面が濃緑色⑬，下面は明灰白色㉟の機体が多く，零戦21型は全面が明灰白色㉟の塗装，カウリングは黒つや消し㉝の機体が多い。雷電の機首上部の反射よけはブルーブラック⑤＋㉝，主翼前縁の味方識別塗装は黄橙色(58)，機体内部は青竹色(57)というように共通である。

（イラストと解説・橋本喜久男）



⬆ 33航空隊の99艦爆11型。
D3A1 of No.33 KOKUTAI.

⬇ 横須賀航空隊所属の2式艦偵「彗星」
D4Y1-C of Yokosuka KOKUTAI.



I am pleased to introduce, this month and next, the old Japanese Imperial Navy airplane kits now on sale from Revell. The SHIDEN-KAI 1/144, GEKKO 1/72 and SAIUN 1/144 are to be on next month.

KIT :

Fig. 1. Zero Fighter, Model 21 (A6M2), 1/144. The stripe works well to finish this small kit in pattern after that of Tainan Naval Air Group.

Fig. 2. Zero Fighter, Model 52 (A6M5), Both 1/32 exceptionally good quality kit and 1/72 standard kit are on market. In particular, the 1/32 kit has an established reputation in that it is correct in scale and consistent in uniting. Illustrated is the plane of No. 725 NAG, known active in covering "SHINRAI" Special Attack Unit.

Fig. 3. SHIDEN, Model 11 (N1K1-J), 1/144. Illustrated is the Model 11-Otsu, N1K1-Jb, and the camouflage shown here is most recommendable.

Fig. 4. RAIDEN, Model 21 (J2M3), 1/32. This kit surpasses other kits of the same model in consistent unit constructure and correctness in scale.

Fig. 5. Type 99 Carrier Dive-bomber, Model 11 (D3A1), 1/144. Illustrated is the plane of No. 40 NAG.

Fig. 6. Type 97-3 Carrier Attack-bomber (B5N2) of Aircraft Carrier ZUIKAKU, 1/144.

Fig. 7. GINGA, Model 11 (P1Y1), 1/72. With precise engine and cockpit, this kit can be converted into any versions, Model 11 through Model 16.

Fig. 8. Type 2 Carrier Rec. Plane, SUISEI (D4Y1-C), 1/144. It ia quite a fan to build this kit to get the carrier rec. plane, but not bomber.

PAINTING :

As for painting hints for the above eight Navy planes, the top and sides are dark green (Revel Color No. 15), and the lower surfaces are light gray white, RC-35. The Zero Fighter Model 21, is totally painted in RC-35, light gray white, with RC-33, non-glare black cowling. The RAIDEN's nose top, anti-reflection device, is RC-5 plus 33, blue black. It is common to all eight airplanes that the identification color on the main wing front edges is RC-58, yellow, and the inside of the framework is RC-57, malachite green.

(Illustration and commentary by Kikuo Hashimoto)

Revel Color For Japanese Navy Planes :

RC-1	white	RC-8	silver
5	blue	15	dark green
35	light gray white	33	non-glare black
58	orange yellow	57	malachite green
28	black iron	41	red brown

レベルカラー

日本海軍機の塗装に必要なレベル・カラー

①ホワイト	⑧シルバー
⑤ブルー	⑮濃緑色
㉟明灰白色	㉝黒つや消し
(58)黄橙色	(57)青竹色
㉘黒鉄色	(41)レッドブラウン



アメリカへ運ばれてテストされた紫電改。テスト後各地で展示されたが、現在はオハイオ州ライト・パタソンの空軍博物館に保存されている。写真の塗装はアメリカで塗りかえたものだが、ほぼ原形に忠実な迷彩パターンである。

1式戦闘機"隼"3型

KI43-III HAYABUSA



〔写真© 菊池俊吉〕



Ki43-IIIKo, No. 19 Fighter Group, "SHINBU-TAI"

今回は一式戦"隼"の最終型である3型（キ43III）の特集。細部のよくわかる写真を集めて掲載しました。3型はエンジンをメタノール噴射のハ115II（離昇1,190馬力）に換装した性能向上型で、昭和19年4月に初号機が完成。同年秋から立川飛行機で生産されている。機首の武装が12.7mmのホ103機関砲×2の甲と20mmのホ5機関砲×2とした乙があったが，乙は試作のみで、実戦に参加したのは甲のみである。123 -125ページの写真では、操縦席のパイロット頭当て後方に設けられたメタノール・タンクの注入口、上から2、3、2本と並んだ推進式の単排気管、胴体下面の円筒状の燃料冷却器など、本機の特徴的な外形の細部がよくわかる。写真の機体は第19振武隊所属機で、昭和20年3月末、調布基地で撮影したもの。





〔上〕飛行中の隼3型甲。風防を開いているが、本機の風防は断面が丸味をおびたふっくらしたものとなり、視界が改善されている。飛行する姿はいかにも軽やか。“軽戦”の隼は最後まで13mm機関砲で闘った

〔下〕B-29迎撃のために機首の武装を20mmのホ5機関砲2門とした隼3型乙試作機。機首のアンテナ支柱後方に20mm砲のふくらみが見えるのに注意。3型乙では蝶型の空戦フラップを廃止して普通のスプリット式のフラップを採用。機首は甲型よりもやや長いものとなっている。中島で2機試作されたが、制式には採用されなかった。



Ki43-III Otsu, prototype, with two Ho-5 20-mm guns mounted on the nose.



Ki43-IIIKo, the latest model of Ki43 Hayabusa, armed with two 12.7-mm Ho-103 guns. The armament-strengthened Otsu version (20-mm guns), developed for intercepting the B-29, had no chance of fight.

〔上・下〕 両主翼下に200ℓ入り増槽を1個ずつ吊した第3型甲。主翼下の増槽架は123と124ページ写真でよくわかるが，これは爆弾懸垂用で，30～250kg爆弾を左右各1発ずつ積むことができた。2枚の写真とも，前線基地への移動時のものと思われる。



特殊攻撃機“剣”

ARMY SPECIAL ATTACKER KI-115 TSURUGI



爆弾を抱いて敵艦に突っ込む"1機1艦撃沈"のために造られた陸軍の特殊攻撃機キ115"剣"。胴体下に500－800kg爆弾1発を半うめこみ式に装備、いったん離陸したら脚を投下してまっしぐらに敵艦を目ざす生まれながらの特攻機であった。終戦の年、昭和20年1月20日に陸軍から中島に試作指示が出され、終戦までに105機が完成したが、重量過大、離着陸性能不良などで改修中に終戦となり、結局1機も出撃することはなかった。ここの写真は戦後アメリカで調査された1機である。離昇出力1,130HPのハ115エンジン装備、主翼は軽金属応力外皮構造、胴体は鋼鉄製の骨組みにブリキ板を張った簡単なもので、尾翼は木製であった。緩衝装置のない支柱に支えられただけの主車輪、ソリ式の尾部、木製フラップなどが上と下の写真でよくわかる。



Special Attacker Ki115, "Tsurugi" meaning a "sward." With a fine spirit to "sink one ship with one attacker." Nakajima manufactured a total of 105 planes in a six-month period, March through August, 1945. These "swards," however, lost a chance of fighting because of tests and amendments in the claimed performances.



これも前ページと同じく、アメリカで調査されたキ115"剣"。キ115は主翼を木製化し、操縦士席を前方に移して視界を広くした乙型も計画されたが、試作機が造られるまでにいたらなかった。したがって、完成したのは全て甲型であるが、後期に造られたものには、主脚に簡単な緩衝装置をつけたものもあった。正面から見た上の写真では、主翼外鈑の粗い整形が目立ち、爆弾が半うめこみ式にセットされる胴体下のくぼんだ部分がよくわかる。爆弾以外に武装はなく、爆弾は手動の投下装置で落すこともできたが、通常では体当りすることになっていた。



ドイツ軍用機写真集 ③

ドルニエ Do217

先月号につづいてドイツ空軍の中型爆撃機ドルニエDo217。同機は爆撃機としての任務のほかに、夜間迎撃や偵察機、高々度偵察爆撃機としても使われ、それぞれのバリエーションがあったが、今回は爆撃機として活躍した最初の標準型E型で、その細部がわかる珍しい写真である。









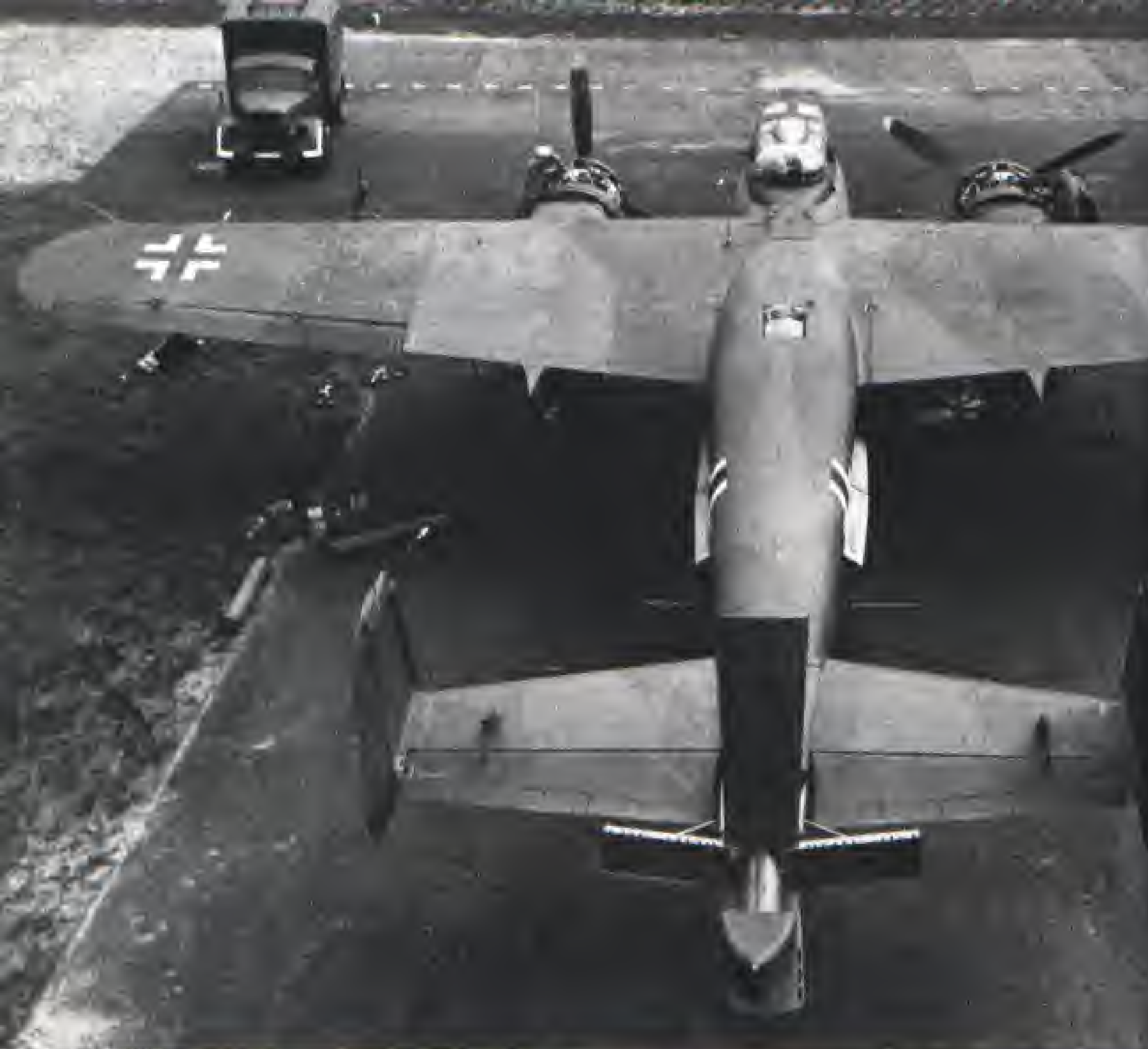


Do217Eは1940年末から実戦部隊への引渡しが開始された。最初に出動したのは爆弾倉にカメラを装置した2.(F)/11(第11長距離偵察連隊第2中隊)のE-0とE-1で、翌41年1月にルーマニアからソ連地区の偵察に飛んでいる。

同年3月には、大西洋の艦船攻撃のために編成されたII/KG40(第40爆撃航空団第2連隊)が爆撃部隊として初めて本機を受領、さらに同年中にKG2(第2爆撃航空団)の三つの航空連隊につぎつぎに引渡されて、同年末には約300機のDo217Eがドイツ空軍に配備された。約100機のE-3のほか完成したばかりのE-2、最初の量産型E-1、それに量産先行型のE-0まで含むあわただしい配備で、英仏海峡ぞいの各基地に翼を並べて、英本土爆撃や北海の連合軍艦隊攻撃にそなえた。42年4月からは本機による大大的な英本土爆撃が敢行されることになる。

131ページと前ページ上は操縦席後方上部に電動式の砲塔を新設したDo217E-2、前ページ下はBMW801Cエンジンを積んだE-4である。このページ2枚はE-2の機首部分クローズアップ。上の写真では7.9mmMG15旋回機銃の銃座がよくわかる。





〔上〕整備中のDo217E-2。本機の平面形がよくわかる写真である。尾端に装備された4枚のリブが傘状に開く本機独得のダイブブレーキがオープンの状態。このブレーキはE-1以来装備されているが、全開にすると胴体後部にねじれが発生するなど問題が多く、のちに廃止されて、Do217の急降下爆撃は禁止された。





[下]出撃するDo217E-2。[右]E-2の機首，ロ
ア戦線で作戦したIII/KG2（第2爆撃航空団
3遭隊1機。上の写真はそのエンブレム。







2次大戦のアメリカ軍用機 ④



アメリカ軍用機写真シリーズ第4弾、今回は優雅なスタイルのF4Uコルセア。〔上〕ハワイのオアフ島ダイアモンドヘッドをまわる4機編隊のF4U-4。エワ飛行場を飛び立った海兵隊の所属機である。終戦2年目の1947年の撮影。〔下〕空母ベニントン（CV-20）から発進する第123海兵戦闘中隊（VMF-123）の所属機。1945年春。



F4U コルセア





［上］これもオアフ島から発進した海兵隊のＦ４Ｕ-1。主翼下にロケット弾懸吊装置、胴体下に増槽架をつけている。［下］沖縄の嘉手納基地に進出した第312海兵戦闘中隊（ＶＭＦ-312）のＦ４Ｕ-1Ｄ。1945年4月9日の撮影で、この部隊のコルセアは、同月7日に第一陣が嘉手納に到着している。増槽を吊して着陸した瞬間のシーン。





〔上〕沖縄本島をめざす海兵隊のＦ４Ｕ-4コルセアと陸軍のＰ-38ライトニングの写真偵察型。コルセアは全機が焼夷弾とロケット弾で武装、ライトニングは胴体下にカメラ・パックを装備している。1945年6月の撮影。〔下〕終戦時に上海地区をパトロールする第10戦闘中隊のＦ４Ｕ-4。空母イントレピットから飛び立った1機である。地上の機体は、緑十字をつけて終戦連絡のために大陸に飛んだ97式重爆の輸送機型。1945年9月3日の撮影。





エアラインの翼

フィンランド航空 ④

フィンランド航空では、Ju52はフロートをはずして陸上機としても使ったが、最初から車輪付きの陸上機として購入したのはデハビランドDH89ドラゴン・ラピッドであった。同航空では1937年に1機を導入、路線に投入したが、乗客収容数は Ju 52の約半分で6座席。いまでいうローカル近距離用のエアライナーであった。同機はデハビランド　ジプシー・シックス200HPエンジン×2、全幅14m、全長10.42m、全高3.11mで、巡航速度は212km/h。世界的に著名な旅客機で、軍用機としても使われ、ドミニイのニックネームでイギリス空軍に採用されているのはご承知のところ。





名所となった韓国のヨイドー広場



C-124C機内の「写真展示場」。尾部には救命ボートも展示されている







C-124C尾部の"写真展入口"。観衆は後方のB-29 のかなたまで長蛇の列。

韓国ヨイドーの5.16広場に展示されている"動乱参戦機"にはその後ぞくぞくと参観者がつめかけ、京城郊外のヨイドーはすっかり名所となった。

6月22日から30日まではC-124グローブマスター機内で、"動乱参戦図・航空機展"が行なわれ、約10万のソウル市民が観覧した。ここの写真はそのときのもので、人波に押しつぶされるような飛行機。うらやましい光景である。



機内の"展示場"。国民学校の生徒も多数が観覧した。



[illegible]C-124C[illegible]B-29[illegible]

2次大戦機スナップ集《続》



●私のアルバムから●

5, 6月号本欄で紹介したアメリカの航空機愛好家C.M.ダニエル氏の"私のアルバムから"の続篇

〔上〕1944年、ニューヨーク州ロングアイランドのリパブリック工場を飛び立って飛行テスト中のP-47D。まだ"新品"のサンダーボルトである。

〔下〕これも完成したばかりのXP-82ツインムスタング。カリフォルニア州ロサンゼルスのノースアメリカン工場にて。





〔上〕1960年にカリフォルニア州サンタバーバラで撮影したF4U-7コルセア。この撮影のときは、まだ飛べる状態であったという。

〔右〕グッドイアー製のコルセアFG-2。エアレースに使われているコルセアで、1947年にオハイオ州クレーブランド飛行場で撮影したもの。同機はのちにレース中に墜落し、パイロットは死亡している。

〔下〕5,850HPのXT40-A-1ターボプロップ・エンジンを積んだリパブリックの試作機XF-84H。1955年カリフォルニア州のエドワーズ空軍基地で撮影。



